

F2一五の直下に出る。このすぐ下もまた滝である。ガスが濃く先の方は見えない。右岸を捲き、最後はアツプザインで沢に下る。三〇位の落差がありそうだ。この先は傾斜もゆるやかに岩がゴロゴロしている。一一時四五分、大倉川に着く。(記・著)

(タイム)

浄土平九・四五―驚ヶ沢出合一〇・一〇―大倉川一  
一・四五

## 中津川

一九七七年八月二十七日～二十  
八日

◆八月二十七日(天気・晴時々曇)

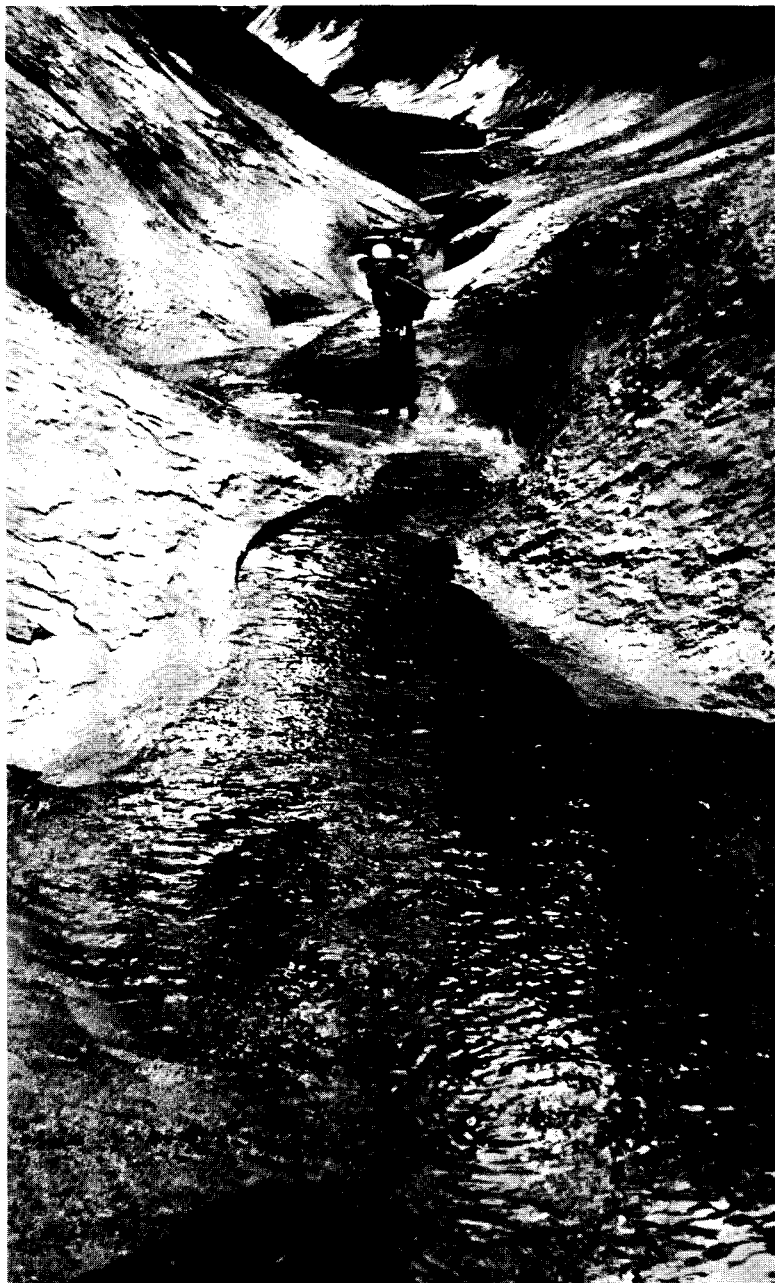
中津川沿いの車道を少し歩いて議場部落方面への分岐、登山計画書のポストのある所から沢に入る。きれいな水である。ブールを二つ越えたあたりから変わった形の廊下が始まる。沢全体の形がまるでナベ底のようで、その最低部が水流で深くえぐられている。左あるいは右岸の側壁にはホールドラしいものもほとんどない。滝は一桁から二桁のが三つあるだけであるが、白滑八丁とよ



中津川・神楽滝

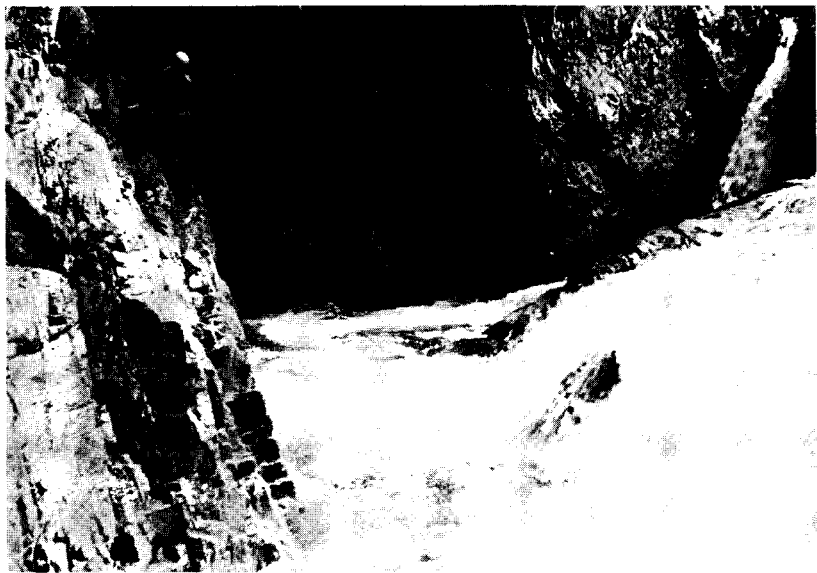
ばれるなかなかの難所だ。バランスよくへつつてゆくが、ひと思いに泳いでやろうかという気にさえなる。四〇分かって突破する。ここから魚止の滝(F1)までは簡単な河原が続く。途中イワナの姿を見たり、クマの足跡をみかける。七時一〇分魚止の滝到着。大きな釜と切り立つ左右の壁が印象的である。右岸の水際をへつつて落口まではゆけるが、その先が登れる自信がなく、戻って左岸を高捲きする。小さな廊下を越えるとまた平凡になる。堰堤を越えしばらくゆくと銚子口。右岸から姥沢が滝をかけて合流し、本流は廊下となって深い釜が連続し



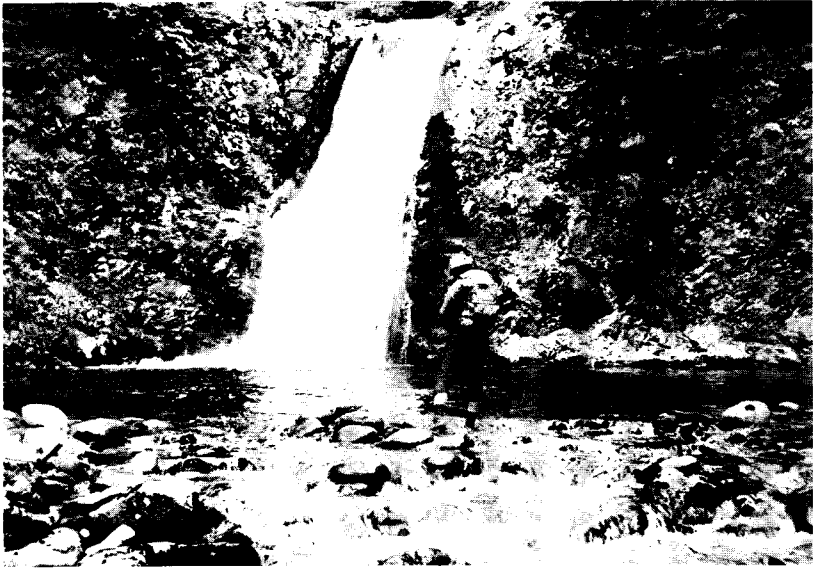


中津川・白滑八丁

ている。岩質が花崗岩質に変わったため、ホールドが豊富でフリクシオンがよくきき、右に左にとび移りへつりながら進んでゆく。このあたり中津川の第二の魅力の中心といったあたりである。九時一五分観音滝到着。この釜も大きい。中津川下流部の滝は落差のわりに釜が大きい。こわれた橋をくぐり大岩へ。名のこくく巨大な岩(実際は右岸側壁の延長)に鎖が一本下がっていてルートを示している。橋の所から下流はきれいだったのに、このあたりから河原はペンキの指示だらけだ。難所のルートを示すためならともかく、ゴロの中にも至る所矢印がつけられて目ざわりだ。小滝を越え、右岸からコケのいっぱい生えた滝で小沢が合流すると廊下は終わり再び平凡なゴロ歩きである。一〇時三〇分左岸から小沢が合流した所で昼食。河原に権現滝と記してあるのにまだわされ、この小沢を権現沢と誤認してしまった。迷惑なペンキである。再び歩き出す。すぐ沢が険悪になり右に支沢を分ける。これが本当の権現沢で、権現滝が大きな水音を立てている。本流の方も豪快な神楽滝だ。落差五〇い。捲き道は左岸にはつきりしたのがある。この神楽滝から先は中津川の核心部で夫婦滝・静滝・熊落滝・三筋



中津川・銚子口



中 津 川 ・ 静 滝

滝・朱滝と落差の大きな滝が次々とかかる。いずれも左岸に登山道といってもよいようなはつきりした捲き道がある。落差が大きいだけに高捲きの登り下りも容易ではない。特に神楽滝、熊落滝、朱滝の捲きは大きい。朱滝から先はまた平凡になり一五時ヤケノママ到着。

〔タイム〕

出合五・四〇―魚止の滝七・一〇―七・四〇―銚子口八・三〇―神楽滝一・一三〇―三筋滝一三・一五―朱滝一三・四五―ヤケノママ一五・〇〇

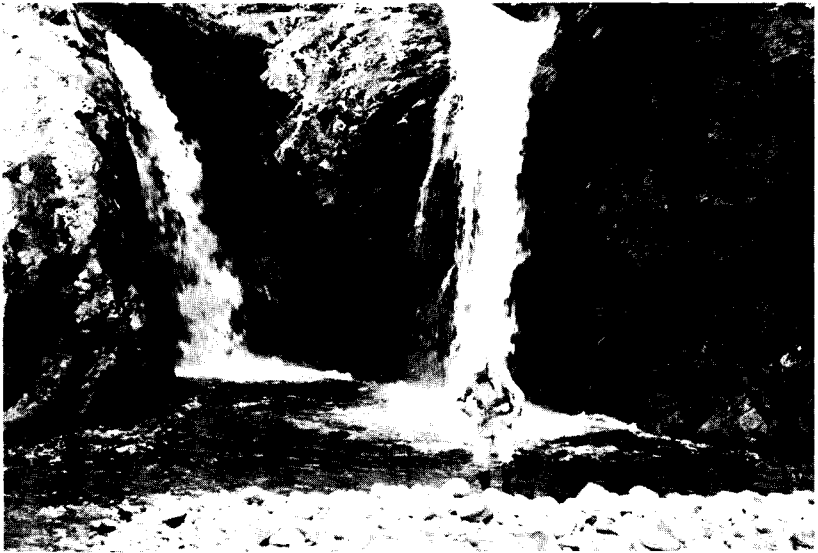
◆八月二十八日(天気・晴)

普通はヤケノママで廻行は打ち切りあとは登山道をたどるのであるが、今回は最後までつめてみようというこゝとで、再び沢を歩き始める。ちよつとした廊下があるがもう滝はかからず、平凡な源流に多少がっかり。やがて湿原が点在するようになり沢がいくつにも分かれる。八時四〇分稜線大凹清水のすぐ下の湿原に出て廻行完了。

(記・西)

〔タイム〕

ヤケノママ六・三五―沢終了・湿原八・四〇―九・三〇―凡天岩一〇・〇〇



中津川・夫婦滝



中津川・魚止滝